

〔 横浜市芸能センター（横浜にぎわい座） 〕
令和 7 年度業務計画及び収支予算
〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

※ 文中の事業欄において、
●：主催事業 ○：共催事業
を示します。
※ 文中の達成指標欄において、
□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜市芸能センター 横浜にぎわい座
所 在 地	横浜市中区野毛町 3-110-1
構 造 ・ 規 模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下 3 階地上 13 階建の地下 2 階から地上 4 階及び地上 5 階部分の各一部を専有
敷 地 ・ 延 床 面 積	専有面積 4,358.97 m ²
開 館 日	平成 14 年 4 月 13 日

2 指定管理者

法 人 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町 2 番地
代 表 者	理事長 近藤誠一
設 立 年 月 日	平成 3 年 7 月 10 日
指 定 期 間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現 指 定 管 理 者 の 管 理 運 営 開 始 日	令和 4 年 4 月 1 日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

（1）基本的な方針

大衆芸能は日常生活の中で、人々の心の拠り所となる親しみやすさを持ち、生きる活力を生み出す原動力にもなっています。また、落語、講談、浪曲からは、人々は敬い、助け合うことが大切であり、一人では解決できないことも打開する知恵を授かることができるといった教えを学べます。

第 4 期指定管理期間では、経常公演「にぎわい寄席」「企画公演」を中核に据えた事業展開を継続しながら、大衆芸能の広い芸種の普及、社会包摂の取り組み、地域との連携等の事業を強化し、より公共施設としての役割を意識した運営に注力してまいります。

【基本方針】

大衆芸能の魅力を広め、地域の賑わいと、人々の交流を促し、豊かな人間性を育む演芸場を目指します。

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 方針1 | 魅力あふれる多彩な公演を主催し、だれもが気軽に大衆芸能を楽しめる演芸場 |
| 方針2 | ベテランから若手までが芸を磨く道場であり、晴れ舞台でもある演芸場 |
| 方針3 | 横浜の劇場街の賑わいを現代に創出し、人々の交流を生み出す演芸場 |
| 方針4 | 専門館としてのブランド力による安定的で持続可能な演芸場の運営 |

(2) 令和7年度の業務の方針

ア 全体について

令和7年度は第4期指定管理期間の4年目になります。引き続き、経常公演全体を安定的に実施し、大衆芸能や伝統文化への入り口としての役割を果たします。横浜や野毛に焦点を当てた「名作落語の夕べ」を3回シリーズで実施するほか、複数の演者がのげシャレーでの育成公演からの芸能ホールでの独演会に昇格するのに伴い、若手実力派が新たに育成公演に加わります。また、寄席体験や学校等へのアウトリーチ、大衆芸能に親しむとともに教育効果を見据えたワークショップを種類を増やして開催といった次世代育成への取り組みや、野毛地区との連携、日本演芸家連合との5日間にわたる共催公演などの取り組みを通じ、私たちに求められる多様な役割を果たしていきます。

また施設の経年劣化が進むなか、安全で快適な施設機能の維持を心がけ、所管課との情報共有を密に行います。

イ 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

さまざまな形態の公演を催すことによって、幅広い世代やさまざまな市民層に大衆芸能への関心と理解を高める場となるよう機能させます。

ウ 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

さまざまな切り口のプログラムを実施することで、大衆芸能を中心とした文化芸術活動の創作や体験等の場を提供します。

エ 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

若手演者の育成に取り組むとともに、子どもに向けた鑑賞の機会を設け、次世代を担う人材の育成に取り組めます。

オ 使命4 地域のにぎわいを創出する

地域の多様な団体等と連携して、地域のにぎわいづくりに貢献します。

カ 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

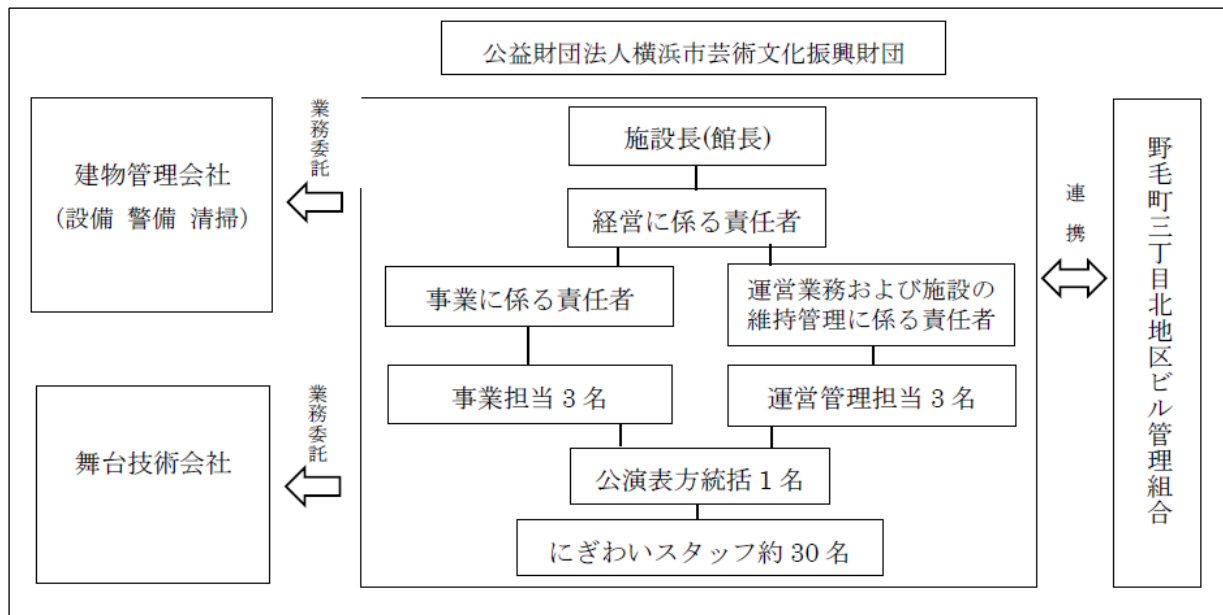
市内唯一の大衆芸能の拠点として親しまれる施設となるように、あらゆる人たちを受け入れます。

キ 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

施設運営の持続可能性を高めるために、中長期的な視点で総合的な施設の維持管理を行います。

ク 使命 7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する
感染症拡大防止対策の実施とともに、来館者の安全、安心を第一に配慮した施設運営を行います。

4 運営組織の構造、人員配置



職員	雇用形態	1日の勤務時間	休日設定
館長(施設長)	職員	7時間45分(シフト制/休憩1時間) ※基本シフト：早番 9:30～18:15 遅番 13:15～22:00 ※その他、業務に応じて複数の勤務時間体系から選択可能 (職員就業規定に基づく)	月ごとに土日祝日に相当する日数を公休日として指定。業務に応じたシフト制(不定休)。
経営に係る責任者	職員		
事業に係る責任者	職員		
運営業務および施設の維持管理に係る責任者	職員		
事業担当①	職員		
事業担当②	職員		
事業担当③	職員		
運営管理担当①	職員		
運営管理担当②	職員		
運営管理担当③	臨時雇用職員		
公演表方統括	臨時雇用職員	4時間10分(シフト制/月15日前後)	週3～4日
にぎわいスタッフ	臨時雇用職員		

大衆芸能に関する高度な知識、演芸界や野毛地域をはじめとする幅広い人脈、劇場運営や安全管理等に対する高い見識などを併せ持つ館長を施設長として配置し、総合的な視点から大衆芸能の専門館に相応しい施設マネジメントを行います。また経営に関する責任者として、文化施設における豊富な運営経験やノウハウを持つ職員を配置し、館長のマネジメントをしっかりと支えます。

事業に係る責任者として芸術文化事業の企画制作や広報の業務に豊かな経験を有する職員を配置し館長の方針を主催事業に反映させます。運営業務ならびに施設の維持管理に係る責任者として施設運営や維持管理に長年の勤務実績を有する職員を配置します。

設備管理、清掃、警備、舞台技術の各業務についてはそれぞれの業務に高い専門性を有する会社に業務委託します。業務の履行状況を適切に管理しつつ経費の効率化もあわせて推進します。

5 令和7年度の業務の取組

(1) 文化事業

主に大衆芸能に親しむ入り口としての「横浜にぎわい寄席」、さまざまな演者の魅力を通して大衆芸能を深く理解する各種独演会など公演毎の機能を明確にし、毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催します。横浜の歴史や野毛の街の魅力を伝える「名作落語の夕べ」3回シリーズのほか、「趣味をテーマの演芸会」では「ただのキャンプ好き」「ただの鉄道好き」「ただの銭湯好き」に加え、ベ이스ターズファンの落語家2人による「ただの野球好き」公演を行います。さらに、子どもたちには教育効果を見据えながら演芸に親しむワークショップを数種設け、若手演者の育成では有望な若手演者を落語だけでなく講談からも発掘し、次世代育成を推進します。また、地元野毛地区をはじめとして地域の多様な団体等と連携し、まちのにぎわいの創出にも寄与します。

(2) 施設運営

利用者、来館者の声に耳を傾けながら、専門的なノウハウを発揮する組織的な施設運営を行い、引き続き安心・安全に施設を利用できるよう万全を期します。コロナの負の影響はほぼ脱したと捉え、演芸ホールとしての専門性や特徴を周知するとともに、大衆芸能公演の開催ノウハウを施設利用者に提供し利用率の向上につなげます。プロの演芸家や団体が開催する公演の利用を促し、主催公演のラインナップとの相乗効果をはかります。近隣施設の長期休館に伴い、代替開催場としての施設提供をPRします。

また指定管理提案にある2階展示フロアのリニューアルに向けた検討やホームページのスマホ対応を行い、施設そのものの魅力と情報発信力を強化します。

(3) 施設管理

施設の状態を常に良好に保ち、安全かつ快適に利用することができるように適切な管理を行います。施設及び設備の維持保全及び修繕については、利用者、来館者が安全かつ快適に利用できるように適切に取り組むとともに、開館23年を経て経年劣化が進むなか、大型の修繕については、横浜市と定期的な打合せを行い、十分な情報共有を行いながら施設及び設備の長寿命化の視点で計画立案します。

(4) 収支

令和7年度は、団体鑑賞者に向けたチケット販売促進や、プロの演芸家や主催団体との共催事業の誘致による稼働率の向上に積極的に取り組むなど事業収入、利用料収入の確保を重点的に取り組みます。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和7年度も引き続き日報および月報の作成・管理を適切に行います。

(6) その他

令和7年度も専門的なノウハウの発揮と市民サービスの向上を、専門文化施設の特性を踏まえて共に発揮するため、市及び関係機関等との連絡調整を重点的に取り組みます。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	鑑賞型事業のメ ニユーのジャン ル数、実施回数 及び入場者数	ジャンル数	25	25	25	－	－	25	－
		実施回数	227 回	200 回	234 回	－	－	200 回	－
		入場者数	31,962 人	35,000 人	33,238 人	－	－	50,000 人	－
2	展示型事業の実施回数		9 回	8 回	12 回	－	－	8 回	－
3	来場者（参加者）満足度（アン ケート集計）		4.4	4.2	4.2	－	－	4.5	－
4 ★	票券システム、ゲッティの 会員数		26,019 人	25,000 人	29,149 人	－	－	29,000 人	－
5 ★	横浜にぎわい寄席の初来館者 の割合		7.9%	40%	38.1%	－	－	50%	－

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1 ★	鑑賞型事 業及び展 示型事業 の参加者 の声	R 4 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 5 達成指標	アンケート等への要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アンケートに楽しんだ旨の感想が寄せられる
		R 8 実績	—
2 ★	広報媒体 に寄せら れた感想 や意見	R 4 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 5 達成指標	アンケート等への要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	自主公演を他者に薦める感想が散見される
		R 8 実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

- ・横浜の歴史や野毛の街の魅力を伝える「名作落語のタベ」3回シリーズで実施します。「趣味をテーマの演芸会」では「ただのキャンプ好き」「ただの鉄道好き」「ただの銭湯好き」に加え、ベ이스ターズファンの落語家2人による「ただの野球好き」公演を行います。具体的に

は、指定管理業務計画表の「Ⅰ文化事業」「1 大衆芸能に係る公演の企画・実施と情報の収集・提供」に記載します。

(2) 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	総来場者数		76,669 人	75,000 人	90,6 91 人	—	—	110,000 人	—
2	貸館利用率	芸能ホール	74%	75%	75%	—	—	80%	—
		小ホール	48%	60%	50%	—	—	70%	—
3	体験型事業のジャンル数及び実施回数	ジャンル数	4	4	6	—	—	4	—
		実施回数	15	25	15	—	—	25	—
4 ★	公演誘致数		2	5	1	—	—	10	—
5 ★	利用者施設見学		37	10	42	—	—	30	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握	R 4 実績	貸出室場の利用者にアンケートを実施した
		R 5 達成指標	貸出室場の利用者にアンケートを実施している
		R 5 実績	貸出室場の利用者にアンケートを実施した
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	対応が必要と判断される要望に対し迅速に行動できている
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

・寄席文字ワークショップなどにぎわい座らしい体験型のワークショップの開催や、子どもたちには教育効果を見据えながら演芸に親しむワークショップを、昨年の開催状況を踏まえて数種設けます。また経常公演前後の寄席囲を使用したホールの活用に取り組みます。具体的には、指定管理業務計画表の「Ⅰ文化事業」「2 大衆芸能の体験の場の提供」及び「Ⅱ施設運営」「1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供」に記載します。

(3) 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	若手演者育成事業の実施回数	173 回	180 回	205 回	—	—	200 回	—
2	子どもをターゲットとした事業数	16	30	16	—	—	35	—
3 ★	若手演者育成公演の平均入場者数	84 人	100 人	151 人	—	—	110 人	—
4 ★	横浜にぎわい寄席への学生、子ども入場者数	399 人	700 人	352 人	—	—	800 人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	子どもたちや学校の声	R 4 実績	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できた
		R 5 達成指標	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できている
		R 5 実績	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できた
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	学校から大衆芸能の体験やアウトリーチを望む声が横浜にぎわい座に寄せられている
		R 8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

- ・若手演者の育成では有望な若手演者を落語だけでなく講談からも発掘し、次世代育成を推進するために、若手演者研鑽の場である「登竜門シリーズ in のげシャレー」を年間通じて継続開催します。また、横浜にぎわい寄席や独演会等での若手登用に積極的に取り組みます。具体的には指定管理業務計画表の「I 文化事業」「3 子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成」に記載します。

(4) 使命4 地域のにぎわいを創出する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して実施した事業数	5	6	7	—	—	10	—
2 ★	自主事業公演への団体誘致数	27	50	39	—	—	70	—
3 ★	野毛共催事業数（利用促進委員会）	4	3	4	—	—	5	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	地域団体との意見交換等による現状把握	R 4 実績	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加した
		R 5 達成指標	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加し地域団体の要望を的確に把握したうえでの連携ができています
		R 5 実績	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加し、連携を行った
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	地域団体のより幅広い各種会合に積極的に参加し、横浜にぎわい座に対する地域のさまざまな期待を把握できている
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

- ・野毛大道芸をはじめ、野毛地区街づくり会や野毛飲食業協同組合と連携してイベントの開催や広報活動を行います。具体的には指定管理業務計画表の「Ⅰ文化事業」「4 野毛地区のにぎわいづくり等への寄与」に記載します。

(5) 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	84	110	84	—	—	120	—
2 ★	横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数	1,523 人	2,000 人	2,096 人	—	—	3,000 人	—
3 ★	横浜にぎわい寄席の障がい者料金利用数	369 人	300 人	473 人	—	—	700 人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	バリアフリー視点からの来館者の声	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している
		R 5 実績	障がい者団体へのインタビュー調査を実施した
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している
		R 8 実績	—
2 ★	バリアフリー設備の維持管理	R 4 実績	機能の適正な維持
		R 5 達成指標	機能の適正な維持
		R 5 実績	機能の適正な維持
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	機能の適正な維持
		R 8 実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

- ・にぎわい寄席をあらゆる人を受け入れる基盤として、誰もが楽しめる場として位置づけています。障がいのある方、在住外国人の方の来場のバリアを検討し大衆芸能へのアクセスを促します。具体的には指定管理業務計画表の「I 文化事業」「5 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出」に記載します。

(6) 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件	—	—	0 件	—
2	法定点検等の実施	100%	100%	100%	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	147%	90%	90%	—	—	90%	—
4 ★	来館者アンケートの施設快適性評価 /5 点満点	4.2	4.2	4.5	—	—	4.4	—
5 ★	避難誘導訓練実施	2 回	2 回	2 回	—	—	2 回	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	施設利用者へのヒアリングを行った
		R 5 達成指標	施設利用者へのアンケート回収時に利用者の協力を得られる場合はヒアリングを行っている
		R 5 実績	施設来館者へのアンケートを行った
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設利用者へのヒアリングで得られた要望のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている
		R 8 実績	—
2 ★	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	光熱水費の上昇について分析を行った。
		R 5 達成指標	年度ごとの仮決算で、予算と差異が生じた管理運営費すべてについて要因分析と善後策検討を行っている。
		R 5 実績	年度ごとの仮決算で、予算と差異が生じた管理運営費すべてについて要因分析と善後策を検討した
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	第四期指定管理期間の管理運営費の推移の中で変動のある科目について要因を分析し改善案を策定する。
		R 8 実績	—

ウ 使命6を達成するために重点的に取り組む事項

- ・「指定管理者業務の基準」等に示された業務を着実に遺漏なく実施します。具体的には、指定管理業務計画表の「Ⅲ施設管理」に記載します。

令和7年度 横浜にぎわい座会計 収支予算書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	233,153,000	0	233,153,000	0	233,153,000	横浜市より
利用料金収入	16,500,000	0	16,500,000	0	16,500,000	施設利用料、附帯設備利用料
自主事業収入	115,279,000	0	115,279,000	0	115,279,000	チケット、講座料、貸切公演等の受託料
雑入	450,000	0	450,000	0	450,000	
印刷代	150,000	0	150,000	0	150,000	利用者コピー代
自動販売機手数料	200,000	0	200,000	0	200,000	自動販売機売上手数料
協賛金・助成金・負担金・寄附金	50,000	0	50,000	0	50,000	
その他	50,000	0	50,000	0	50,000	
収入合計	365,382,000	0	365,382,000	0	365,382,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	103,143,000	0	103,143,000	0	103,143,000	職員、アルバイト、にぎスタ人件費
給与・賃金	86,991,000	0	86,991,000	0	86,991,000	
社会保険料	9,158,000	0	9,158,000	0	9,158,000	
通勤手当	4,477,000	0	4,477,000	0	4,477,000	
健康診断費	38,000	0	38,000	0	38,000	
勤労者福祉共済掛金	54,000	0	54,000	0	54,000	
退職給付引当金繰入額	2,425,000	0	2,425,000	0	2,425,000	
事務費	12,145,000	0	12,145,000	0	12,145,000	
旅費	60,000	0	60,000	0	60,000	出張旅費
消耗品費	1,800,000	0	1,800,000	0	1,800,000	事務消耗品費
印刷製本費	100,000	0	100,000	0	100,000	
通信費	900,000	0	900,000	0	900,000	電話代、郵送料
使用料及び賃借料	2,410,000	0	2,410,000	0	2,410,000	
横浜市への支払分	160,000	0	160,000	0	160,000	市目的外使用料
その他	2,250,000	0	2,250,000	0	2,250,000	コピー機、予約システム使用料
備品購入費	300,000	0	300,000	0	300,000	
施設賠償責任保険	58,000	0	58,000	0	58,000	
職員等研修費	10,000	0	10,000	0	10,000	
振込手数料	70,000	0	70,000	0	70,000	
リース料	2,070,000	0	2,070,000	0	2,070,000	PCリース
手数料	150,000	0	150,000	0	150,000	産廃手数料
地域協力費	0	0	0	0	0	
委託費	3,000,000	0	3,000,000	0	3,000,000	情報コーナー改修
広告宣伝費	1,000,000	0	1,000,000	0	1,000,000	ホームページ改修
負担金、会費	32,000	0	32,000	0	32,000	町内会費
雑支出	185,000	0	185,000	0	185,000	真打昇進披露、式典参加、供花
事業費	102,449,000	0	102,449,000	0	102,449,000	
自主事業費	102,449,000	0	102,449,000	0	102,449,000	出演料、舞台技術費、広報物制作費、チケット販売手数料
管理費	111,362,000	0	111,362,000	0	111,362,000	
光熱水費	24,551,000	0	24,551,000	0	24,551,000	
電気料金	17,714,000	0	17,714,000	0	17,714,000	
ガス料金	5,075,000	0	5,075,000	0	5,075,000	
水道料金	1,762,000	0	1,762,000	0	1,762,000	
修繕費	3,000,000	0	3,000,000	0	3,000,000	60万円未満の小破修繕
設備保全費	63,664,000	0	63,664,000	0	63,664,000	
電気設備保守	0	0	0	0	0	
害虫駆除清掃保守	120,000	0	120,000	0	120,000	
専有部分管理費	54,344,000	0	54,344,000	0	54,344,000	専有部の設備管理、警備、機械警備、清掃
舞台技術費	9,200,000	0	9,200,000	0	9,200,000	ホール等日常管理業務
共益費	20,147,000	0	20,147,000	0	20,147,000	ビル共用部管理費
公租公課	11,036,000	0	11,036,000	0	11,036,000	
消費税	10,975,000	0	10,975,000	0	10,975,000	
印紙税	40,000	0	40,000	0	40,000	
その他	21,000	0	21,000	0	21,000	
事務経費	25,247,000	0	25,247,000	0	25,247,000	
本部分	25,247,000	0	25,247,000	0	25,247,000	事務局積算による数値
支出合計	365,382,000	0	365,382,000	0	365,382,000	
差引	0	0	0	0	0	